

「H29九州農政局むらの宝」に選定

農家民宿 具座

本当の田舎三瀬 ここから世界へ！



食材の旬に合わせた料理(一例)

しいたけ収穫

そうめん流し

農作業体験

海外からのお客様

取組概要

- H17年に村役場を早期退職し、就農したのを契機に農家民宿を開業。
- 自家野菜を利用した田舎料理、猪やヤマメ料理など地域食材を利用した料理を提供。山菜採り、釜戸炊きごはん、ピザ焼き、薪割りなど多彩な体験も提供。
- 海外ドラマの撮影舞台となったこともあり、海外からのお客が増加。外国語やインターネットの知識習得に取組み、HPの英語表記や海外のブロガーやユーザーと連携を図っている。

活動成果

- 築100年の納屋を改築した宿の趣や「おもてなしの心は自給自足にあり」をモットーにした料理、体験が評価され、リピーターやファンが増加。毎年500人以上の利用客がある。
- 海外からの利用客は、海外ドラマの撮影舞台となった翌年のH28年は105人(H27年は38人)に増加し、H29年はSNSを活用した情報発信(拡散)により、さらに倍増する見込みである。

農家民宿 具座
佐賀県佐賀市三瀬村藤原1097

<https://ja-jp.facebook.com/mitsuseguza/>
Tel :0952-56-2649 Fax : 同左

わらびの 蕨 野集落

先人が残した貴重な宝(棚田)を未来につなぐために



取組概要

- 耕作放棄地の再生を目的に、佐賀大学と棚田援農隊を結成し、約8,500㎡を復田。さらに企業等の協力を得て、石積みや畦畔の草刈活動を実施。
- ブランド米「棚田米蕨野」として生産・販売。直売所では、棚田米や棚田米せんべい、米サイダーを販売。
- 「早苗と棚田ウォーク」、「ふるさとの灯りコンサート」などのイベントを開催し、都市住民と交流。

活動成果

- イベントに多くの都市住民が訪れたことで、蕨野の棚田ファンが多くなり、「棚田米蕨野」の売上が増加している。
- イベント時に、直売所女性会員の手作りによる、さつま芋の菓子やコロケなどを販売することで、高齢者の活躍の場や都市住民とのふれあいが生まれた。
- 地域住民が蕨野集落に誇りを持つようになり、先人が苦労を重ねて築いてきた棚田を未来へ継承しようという機運が高まった。

「H28九州農政局むらの宝」に選定

社会福祉法人もやいの会

働きたいをカタチにー農福連携の試み



プール跡地に建てた耐候性ハウス



快適な環境での収穫作業



トマトシフォン作り

取組概要

- H26年に小学校の廃校舎を活用し、複合環境制御ハウス12aを設置し、ミディトマトの養液栽培を実施。また、菓子工場の施設を整備。
- トマト栽培では、雇用契約を結ぶ就労支援A型の10人が栽培・選果に就労。菓子工房では、雇用契約を結ばない就労支援B型の23人が「トマト・シフォン」作りや原木シイタケ栽培に就労。
- 地元との融和のため、「地元協議会」を年2回開催。3月には収穫祭を開催。

活動成果

- 月産約3トンのミディ・トマトは、積極的な直売先の開拓で、大型スーパーにも出荷されるようになり、栽培、選果に従事している就労支援A型の10人には、県の最低賃金を支払うことができている。
- 就労支援B型の23人には、シフォンを月産200個製造販売する菓子工房や原木シイタケ栽培などの収益で、工賃を支払うことができている。
- 地元からは、廃校を再生させたことが高く評価され、収穫祭の参加者も500人を超える。

社会福祉法人もやいの会

佐賀県多久市南多久町下多久6103-2

Tel : 0952-76-4600 Fax : 0952-76-4620

「ディスカバーむらの宝(第4回)」に選定

たなだまい ひらの棚田米振興協議会

孔子の流れは棚田に注ぐ賢い子供の棚田米



直売所での試食販売キャンペーン 進物用袋の例



稲刈り体験イベント

稲刈り体験イベントでのおにぎり準備

取組概要

- 棚田米の生産農家9名でH23年に設立。良食味米の特色を活かし、直売所の他、市内の飲食店、市外の店舗等での直売やネット販売を実施。H26年から稲刈りイベントも実施。
- 2kg袋・3kg袋・5kg袋、赤ちゃんの日晴れ等の進物用に自由袋(2kg～4kg袋)で販売するなどきめ細かに対応。
- 稲刈り後に共同でレンゲの種をまき、春の開花後に鋤きこむ減化学肥料対策を実施。

活動成果

- 一度食べたら、その美味しさからクセになると好評で、リピーターが増えており、市外・県外からのネット注文も毎年増加し、売上は、H24年の約90万円からH28年には約4倍増の370万円。
- 多久市のふるさと納税の返礼品やプレミアム商品券、イベント等の景品にも利用されるようになった。
- 稲刈りイベントも好評で、都市住民に「ひらの棚田米」を広く知ってもらうことができ、地域の活性化に繋がっている。

ひらの棚田米振興協議会事務局
佐賀県多久市北多久町大字小侍2番地35

Tel : 090-2513-2076 Fax : 0952-75-5729
Eメール: kozono1022@yahoo.co.jp
URL <http://www.hirano-tanada.com/>

は た つ ち ょ う 波多津町 まちづくり運営協議会

豊かな大地と海を活かし、新たな価値を創る



「波多津ウオーク」



BBQ波多津の海の幸・山の幸



潮風に吹かれてのBBQ

取組概要

- H20年に全住民を会員に発足。全世帯対象とした調査を基にまちづくり計画を策定。H26年に第2次計画を策定。
- 計画に基づき、地域農畜産物のPR・販売拠点「ふれあい広場」でのカキ焼き、伊万里牛などのBBQや直売所を運営。
- また消費者交流イベント「波多津みなと祭り」の開催、「あぐり山」の公園整備、住民の健康づくりと観光客誘致を兼ねた「波多津ウオーク」の開催など多様な活動を住民が主体となって推進。

活動成果

- カキ焼きは11月上旬から翌年の4月下旬の毎週土・日に開催され、新鮮さが好評で、貸切バスでの来客もある。
- 10月開催の「波多津みなと祭り」は海の幸・山の幸BBQやろ漕ぎレースなどが催され、3,500人の参加がある地域の一大イベントとなっている。
- 3月開催の「波多津ウオーク」は花桃が咲く「あぐり山」や漁港など波多津の美しい景観を巡回し、町内外より350人の参加がある。

波多津公民館

佐賀県伊万里市波多津町辻1080番地

Tel : 0955-25-0001 Fax : 0955-25-1140

きたかしま
北鹿島ふるさと会

故郷の農村環境は ふるさとで守ろう



「柳瀬水道」の清掃活動



「田んぼの学校」での田植え



海の森事業での植林作業

取組概要

- 地域の農業は、歴史のある「柳瀬水道」の水を利用しており、農地・水路・道路等の保安全管理活動や施設の長寿命化の活動と併せて、この「柳瀬水道」の整備を重要課題として活動。
- 農村環境保全活動として、老人クラブとの花植えや野鳥観察会、小学校との連携によるクリークへのEM菌投入、「田んぼの学校」の支援、有明海の水源となる山林の下草刈り等に取り組む。
- 「田んぼの学校」は年間の米作りを体験。

活動成果

- 会の活動を通じて、農地等の適切な維持管理と併せて、話し合いが増えたことで効率的な水利用にも役立っている。
- 「柳瀬水道」を維持管理していくために歴史ある地域資源として体験学習を行うことにより、次世代へ伝えていこうという意識が高まっている。
- 「田んぼの学校」の実施により、子供たちの体験活動のほか、農業者も伝統農法の大切さを再認識し、保護者や地域住民との交流にもつながっている。

北鹿島ふるさと会

佐賀県鹿島市大字山浦甲1564-2

Tel : 0954-63-2853 Fax : 0954-62-5087

えりやま 江里山棚田米生産組合

棚田と彼岸花の里 江里山



棚田と彼岸花のコントラスト



彼岸花祭り



ふるさと納税返礼品に活用

取組概要

- 集落の農家24戸で構成。耕作面積11ha。棚田米のブランド化を図るため、菜の花の鋤き込みによる化学肥料の低減、低温貯蔵庫、精米機、色選機の導入による品質管理を実施。
- 農地、水路、農道の維持管理、農道整備を行い、高齢者のサポート体制を構築。
- H10年より彼岸花祭りを実施。祭りでは、案山子コンテスト等も実施。休耕地を活用し、都市住民と行う蕎麦づくりのほか、コスモス、ひまわり等景観作物を栽培。

活動成果

- 棚田米は県の特別栽培米の認定を受け、デパートやホテル等への販路拡大に繋がるとともに、近年はふるさと納税の返礼品としての出荷が増加。
- 彼岸花祭りへの来訪者は当初の百人台から、近年は千人台へと増加するとともに、四季に応じた景観づくりにより年間を通して観光客が来訪。
- 地元特産のこんにゃく等の販売増、祭りや棚田保全を手伝う大学生、県内企業のボランティアの受入に結びついている。

江里山棚田米生産組合

佐賀県小城市小城町岩蔵4844

Tel : 0952-72-4677

うれしのおんせん

嬉野温泉湯どうふ振興協議会

とろ〜り嬉野名物「嬉野温泉湯どうふ」



湯豆腐フェスタ 大鍋による販売



セット商品と飲食店の温泉湯豆腐

取組概要

- 江戸時代からの名物料理「嬉野温泉湯どうふ」を全国に広めるため、豆腐の材料、製造、料理、販売などの一元的な管理と広報活動を推進。
- 大豆は市内の集落営農組合・全農・商社との契約栽培。嬉野産大豆を100%使用し、添加物は使用しない豆腐を製造。H19年に商標登録。
- 嬉野温泉の各旅館や飲食店で提供。家庭でも楽しめるよう豆腐、温泉調理水、たれ等のセット商品を全国発送。PRイベントとして、「湯どうふフェスタ」を開催。

活動成果

- 嬉野産大豆を使用した安全・安心な豆腐を製造し、嬉野温泉の各旅館や飲食店で提供する地産地消(H28年大豆消費量約66トン)が定着。
- 温泉の食文化において新たな商品開発を進める中で、古来より食されていた湯豆腐を「嬉野温泉湯どうふ」として確立。
- 今年で16回目になる「湯どうふフェスタ」の来客数も6千人程度とPRイベントとして定着。豆腐のパッケージ統一等により消費者が安心して購入できるようになっている。

嬉野温泉湯どうふ振興協議会

佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2202-55 Tel : 0954-43-0137 Fax : 0954-42-0361

株式会社 きやまファーム

エミューで「一石二鳥」



取組概要

- 耕作放棄地を活用し、町おこしに繋げるため、エミューの放牧を持続的にを行い、加工から流通までを担う当社をH27年に設立。
- 耕作放棄地にエミューを放牧。草を啄み、土地を走り回ることによって草の繁茂を防ぎ、耕作可能な状態に再生。また、再生農地で健康機能食品のキクイモを栽培。
- エミュー肉を使った「エミューキーマカレー」を商品化。これを核に地域の食品製造業者や飲食店と連携し多様な商品開発を推進。

活動成果

- 当初は放牧する農地の借り入れも同意が難しかったが、イノシシ等の獣害対策の効果もあり、以前よりもスムーズに農地が利用できるようになった。
- 町の定住促進PRのCMのキャラクターとしても使用され、住民の認知度が上がり、町を代表する鳥となった。
- 近年では、エミュー料理を提供する飲食店も増加し、基山町のご当地メニューとなっている。

株式会社 きやまファーム

佐賀県三養基郡基山町大字園部2784-7

Tel : 0942-50-8603 Fax : 0942-92-5548